令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大宮東 中学校 ）　　学校番号　２２０　　【様式】

目指す学校像	「活気のある学校」 ○何事も本気で取り組む生徒　○生徒の良さを見つけ育てる教師　○生徒・職員・保護者と一体となった地域

重点目標	1　ICTを活用した学びの日常化に向けた取組の実践 2　安心安全な学校に向けた教育支援・教育相談の充実 3　コミュニティスクールのさらなる連携と協働の充実 4　教員の努力が相乗効果として発揮される組織の確立

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和６年２月６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○読解力について、４年前の全国学力・学習状況調査の正答率を全国と平均すると９ポイント高い結果となった。 ＜課題＞ ○市の学習状況調査の市平均と比較すると、正答率の低い問題や無回答率の高い問題について、開きが見られる。 ○読解力について、各教科で身に着けたスキルを教科等横断的に活用し、教員間の授業スキルの向上を目指す。	・学びの自律化、探求化に向けた情報端末の活用と授業改善	①「学びのポイント」を活用した授業研究を各教科で年間１回以上取り組み、生徒が主体的に学べる「探求的な学び」を実践する。 ②スタディサプリを活用し、活用状況の支援指導を各学期に１回以上、実践する。	①授業研究を年間１回以上行ったか。教員アンケートにおいて、「探求的な学び」ができたか項目の肯定的な割合が80%以上とする。 ②スタディサプリを活用した指導支援を各学期１回以上行う。	①すべての教員が研究授業を 1 回以上実施した。「探求的な学び」について、学びの指標アンケートより肯定的な割合が 80%であった。 ②スタディサプリを活用した指導支援を各学期１回以上行った。	B	○「学びのポイント」を活用した研究授業、スタディサプリの活用することは実践ができたが、生徒がより主体的に学ぶ指導の工夫・改善が必要である。また、タブレットの活用方法を研究し、学びの自律化と個別最適化をもとに授業の工夫・改善に努める。	○生徒の授業の様子は真剣に取り組んでいることから概ね成果が表れている。今後も市教委等の背策を視点とし、分かりやすい授業の工夫・改善に努めてほしい。
		・学習の土台となる読解力の向上	①各教科の定期テストにおいて読解力に関する問題を２問出題し、生徒の理解の状況を把握し授業改善に活かす。 ②全国、市の学習状況調査において、読解力を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受け、効果的な手立てを研究する。	①生徒の読解力の理解の状況を把握し、授業改善ができたかという教員アンケートで肯定的な割合が 80%以上とする。 ②調査結果の分析結果や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の手立てとする。	①教員アンケートより、授業改善ができたという肯定的な割合は 73%であった。 ②教員アンケートより、生徒の興味関心を引き出す授業改善を行っているという肯定的な割合は 78%であった。	B	○読解力向上の視点で授業改善に努めたが、昨年度の学校課題研究を検証する取組でさらに一歩踏み込む研修ではなかった。読解力向上が学習の土台となるよう授業の工夫・改善に努める。	
2	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、医療機関への救急搬送は１２件、連絡体制などスムーズに行えた。 ＜課題＞ ○教職員と生徒一人ひとりとの信頼関係の構築が大切であり、生徒とかかわりを持つ機会を多く創る必要がある。 ○災害時や危機対応時の教職員の連絡体制や緊急所の動き方の研修会を行い、徹底した訓練を生徒への指導に活かす必要がある。	・生徒一人ひとりへのきめ細かな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①情報端末を活用して生徒のアンケートや校務支援システムの活用を蓄積し、生徒の状況を継続的に把握する。情報を共有し、教員が一人で抱え込むことのないように組織で指導支援を行う。 ②教員が生徒とかかわりをもつ時間を増やす工夫をする。	①情報端末を活用した情報の共有ができたかという教員アンケート肯定的な割合が 80%以上とする。 ②教員が生徒とかかわりを持ち、生徒のよさを伸ばす支援ができたかという教員アンケートで肯定的な割合が 80%以上とする。	①端末を活用した情報共有は 100%である。すべての教職員が、端末を活用し、情報提供含め活用している。 ②教員アンケートより、生徒のよさを伸ばす支援ができたかという肯定的な割合は 75%であった。	B	○端末を活用した情報共有の確実に実施しているが、生徒一人ひとりと向き合う時間の確保も必要不可欠である。いかに教員と生徒と向き合う時間の確保と教育支援・相談に向けた校内体制の充実に努める。	○いじめや不登校生徒について、学校はよく取り組んでくれている。今後も学校と家庭で連絡を取合い、少しでも生徒の不安を解消できる取組を実施してほしい。また、地域の主任児童委員や民生委員との連携を図り、問題解決の一助としてほしい。 ○学校と大宮区避難場所担当者と協働で運営訓練ができないか検討してほしい。
		・教職員の危機意識と生徒自身の自助共助、安全な学校生活の実現	①緊急対応時の研修を計画的に実施し、振り返りを蓄積し、日常の生活につなげていく。 ②生徒自ら危険を察知する力や地域に貢献する力など生徒の主体的な活動となるよう働きかける。	①緊急対応時の研修の反省点を振り返り、蓄積をする。 ②休日行われる地域の防災訓練等への生徒の参加数が 10 人以上とする。	①地震による避難訓練、竜巻訓練、また、教職員の不審者対応、ケガ等による緊急対応を行い確認することができた。 ②大宮区避難場所運営訓練には生徒４名が参加した。	B	○緊急対応時の教職員の研修を実施したが、避難訓練だけでは生徒の自助共助の意識を高めるには不十分であった。自然災害時の対応について、自分事として考えて行動できる力を身に付けられるよう取組等の工夫・改善に努める。	
3	＜現状＞ ○学校運営協議会、社会福祉協議会、東中よくし隊、自治会、PTA 等、地域や保護者は東中に強い愛着を示し、協力と支援体制が確立されている。 ＜課題＞ ○生徒に将来の夢やつながりを考えさせるために、さらなる学力向上はもちろん、体験活動を通しての培う力など、基礎となる土台を固める必要がある。 ○地域とのかかわりやボランティア活動に生徒が主体的に参加をすることを増やし、ふるさとであるこの地をさらに大切にする心を培う必要がある。	・地域との連携・協働によるさらなる生徒の自己肯定感を醸成する教育活動の展開	①地域等の支援から連携協働へとさらなる進化、深化をし、共通理解、共通行動を行う。 ②様々な体験活動を通して、生徒の自己肯定感、豊かな情操等、豊かな人間関係を醸成する。	①学校運営協議会において、活動内容の改善について議論をし、前向きな熟議を行う。 ②地域の行事に参加したかという学校評価生徒アンケートで肯定的な割合が 75%以上とする。（R4:67%）	①学校と地域のかかわりをテーマに議論を深めることができた。特に地域での行事に生徒をより多く参加できる体制づくりを検討した。 ②地域の行事に参加したかというアンケートより、肯定的な割合は 57%であった。	B	○地域の行事について、生徒の参加が久しぶりのため、地域とより連携を図り、地域の方々とふれあい、成就感や達成感を味わう活動を地域とともに検討し、生徒の自己肯定感を醸成に努める。	○地域は、行事を盛り上げるために、中学生の力を頼りにしている。今後は関係団体とより連携を図り、中学生の参加しやすい工夫を図っていただきたい。
		・生徒が主体的な活動となる教育活動の展開	①他人を思いやる心や郷土愛等を醸成するために生徒自らの考えで行動できる機会を意図的、計画的に創る。 ②上記の様々な①の体験を通して、生徒からそれ以上に広がるような活動へとつなげる。	①生徒アンケートより、地域や社会をよくするために何かしてみたいという肯定的な割合が 75%以上とする。 ②生徒が自主的に参加をするボランティア活動に最低 1 回は参加した割合が 30%以上とする。	①生徒が地域や社会をよくするために何かしてみたいという肯定的な割合が 75%以上であった。 ②生徒が自主的に参加をするボランティア活動に参加した割合が 10%以上であった。	C	○生徒は地域への貢献意識はあるが、実際に主体的な行動へと移すことはできていない。生徒会や専門委員会の活動に関連付け、生徒の自主的活動へとつなげる。	
4	＜現状＞ ○新たな研修制度について、積極的に受講をしようとする教職員もいる。今後、教職員の研修に対する意識をさらに高める必要がある。 ＜課題＞ ○新たな研修制度について、教職員の意識改革と教育データの利活用等新たな時代の教師に求められる資質・能力を身に着ける必要がある。	・新たな研修制度の周知と教員の主体的な研修の実践	①新たな研修制度をしっかりと理解するための研修会を１学期に実施する。 ②「キャリア navi」と研修受講履歴を活用し、面談等で個々の強みを活かした研修となるよう助言する。	①新たな研修制度が理解しているか第１回目のキャリア振り返りシートで確認し、適切な指導助言を行う。 ②教職員の研修について、キャリア振り返りシートを活用し、自己評価の第２回目の平均ポイントが 0.5 ポイント以上とする。	①５月の教職員との当初面談で教職経験ステージ合わせた指導助言を行うことはできた。 ②キャリア振り返りシートの自己評価より、0.2 ポイント（①2.8②3.0）の増加であった。	B	○教職員は、新たな研修制度について理解はしているが、一人ひとりの意識に差があった。研修の内容や方法など、職員会議や研究推進委員会などで、周知や取組み方等の工夫・改善や管理職による声掛け、見届けを行う。	○引き続き、教職員の主体的となる研修の内容や方法を検討してほしい。